

震災がれきと産業副産物のアロケーション最適化コンソーシアム
～ 未利用資源有効利用の産学連携拠点の形成 ～
(略称：がれき処理コンソーシアム)

適用事例集について

謹啓 今般の東日本大震災で被災された皆様におかれましては、謹んでお見舞い申し上げます。また、被災された自治体の皆様におかれましても、復旧・復興のため、日々、鋭意ご尽力されていると拝察いたします。

さて、震災がれきと産業副産物のアロケーション最適化コンソーシアム（略称：がれき処理コンソーシアム）は、東日本大震災で発生した夥しい量の震災廃棄物（がれき）を資材化し、有効活用するために必要と思われる技術を、被災地の復旧・復興に役立てて頂くために、産学の連携により2012年6月15日に発足いたしました。

本コンソーシアムでは、東日本大震災で発生した膨大な量の震災がれきのうち、特に現地での利用が望まれる①コンクリートがれき、②津波堆積土砂、③がれき焼却灰および④ふるい下残渣、を対象として、これらの有効利用技術に関する技術開発を行い、技術的な側面から被災地の復興に資する情報を整理することを目的としております。また、ここで開発・事業化された諸技術は、震災復興に役立てるだけでなく、震災の発生以前から東北地方が定常的な課題となっていた建設廃棄物、スラグ、石炭灰、紙パルプ焼却灰、下水汚泥、都市ゴミ焼却灰などの有効利用に対し、これらを未利用資源ととらえ、本コンソーシアムで培った技術を応用し、東北地方における資源循環型社会の構築の拠点形成の足掛かりとすることを目指しております。

このような観点から、2013年6月に、コンソーシアムの会員企業各位が保有する、がれきの処理、利活用に関する技術情報を取りまとめ、技術情報集を作成いたしました。その後、会員企業の新規ご参入や、開発された技術の現場での実証実験などの適用事例が蓄積されたことを鑑みて、この度、新たに適用事例集を取りまとめることと致しました。本書が、被災地の復興に役立つことができれば、幸いです。

なお、本書には、関連学協会等が提示した、被災地でのがれきの利活用に重要と思われる下記の情報も併せて収録しております。

- ◆ 災害廃棄物焼却主灰を原料とする再生資材の地盤材料利用を対象とした物性評価スキーム 第一版（2012年12月13日）（(公社)地盤工学会・東日本大震災対応調査研究委員会・地盤環境研究委員会）
- ◆ 災害からの復興における社会基盤整備への復興資材等の利用のあり方に関する提言（2014年3月28日）（(公社)地盤工学会・災害からの復興における災害廃棄物、建設副産物及び産業副産物の有効利用のあり方に関する提言検討委員会）

これらの情報の掲載にあたりましては、勝見 武 博士(京都大学大学院 教授)ならびに肴倉 宏史 博士(独立行政法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 循環資源基盤技術研究室 主任研究員)からの多大なるご支援を頂戴しました。この場を借りて謝意を表します。

末筆ではございますが、コンソーシアムのメンバー一同、一日も早い被災地の復旧・復興を心より祈念しております。

謹白

2014年6月

がれき処理コンソーシアム・代表
東北大学大学院工学研究科・教授
久田 真

震災がれきと産業副産物のアロケーション最適化コンソーシアム
～ 未利用資源有効利用の産学連携拠点の形成 ～

適用事例集

目 次

	頁
第1編 コンソーシアムの概要	
概要説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. 主旨, 2. 活動目標, 3. 活動期間, 4. 実施体制	
組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
これまでの活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
1. 会議等の開催状況, 2. 復旧・復興への支援状況, 3. マスコミ関係の報道状況	
第2編 これまで行ってきたコンソーシアムからの提言	
コンソーシアムからの質問・ご提案事項・・・・・・・・	11
1. 第1回全体会議, 2. 第2回全体会議, 3. 第3回全体会議	
第3編 会員各社の適用事例	15
資料	
・災害廃棄物焼却主灰を原料とする再生資材の地盤材料利用を対象とした物性評価スキーム 第一版 (公社)地盤工学会・東日本大震災対応調査研究委員会・地盤環境研究委員会 (2012年12月13日)	99
・災害からの復興における社会基盤整備への復興資材等の利用のあり方に関する提言 (公社)地盤工学会・災害からの復興における災害廃棄物、建設副産物及び産業副産物の有効利用の在 り方に関する提言検討委員会 (2014年3月28日)	103
参画企業一覧	107